

校長室だより		令和5年11月14日発行
<b>共学共高</b>	第	発行責任者
	58	白梅学園高等学校長
	号	武内 彰

## 沖縄修学旅行～その2

修学旅行2日目は沖縄本島で1日過ごすプランである。ホテルからバスで「美ら海水族館」へと向かう。バス駐車場から水族館までは徒歩10分ほどであるが、伊江島のそびえる海を見ながら水族館の入口へと向かう景色も素敵だ。入口付近で集合写真を撮影したのち、チケットを受け取って各自で館内を見学する。私は、バスガイドさんから「見つけてください」と言われた、「白と黒のニモ」「グルクン（沖縄の県魚、タカサゴのことらしい）」「カクレクマノミ」を探すことにしたが、「カクレクマノミ」を見つけることができなかった。水槽内にいる色とりどりの魚に生徒たちは目を見張っていたが、ジンベイザメやマンタのいる大水槽の前では人だかりができており、写真撮影をする姿が多く見られた。また、チンアナゴや幻想的なクラゲも人気のようだ。館外に出ると、海に面した施設内にウミガメやマナブイーの愛らしい姿を見ることができる。イルカショーが行われる施設は改修工事の最中で、小規模なイルカラグーンでショーが行われていた。私も生徒たちと一緒にイルカショーを楽しんだ。ショーが始まる前に、腰かけて待っていると、私の目の前で、外国人の幼い女の子が音楽に合わせて踊り始めたので、“How cute you are!”と声を掛けたが特に反応はなかった。不審者だと思われたのだろうか。その代わりに母親とみられる女性が、“Thank you!”と言ってくれた。

生徒たちが制服を着ているときには、当然のことながら私にもすぐわかるのだが、私服になるとすぐさま白梅生だとはわからないこともある。この日も様々な高等学校の生徒たちが水族館を訪れていた。雰囲気や白梅生に似ているグループがそばにいたので、「こんにちは」と声を掛けたら、どうやら違ったようだ。顔と名前の一致している生徒がいるときだけ、声をかけるようにしよう。不審者と間違えられたら困る。



続いてバス内に集合した後は、「古宇利オーシャンタワー」へと向かう。

全長 1960m の古宇利大橋を渡って、古宇利島へと入る。周囲の海もエメラルドブルーで綺麗だ。運が良ければ、ウミガメを見ることもできるようだ。バスを降りて、オーシャンビューのタワー内で昼食をいただいて、各自で自由見学とお買い物の時間である。貝の博物館といったようなコーナーもあり、美しい貝殻が展示されている。エレベーターもあるが、私はタワーの最上階まで徒歩で上がることにした。最上階からは美しい海の景色が眼下に広がり、思わず「きれいー」と生徒たちから声がこぼれる。ただ、風が強く、さすがの生徒たちもこの時ばかりは前髪を整えることもできない。「先生一緒に写真を撮りませんか」と声をかけられたので、生徒たちと一緒にポーズをとった。

お土産コーナーでは、なかなか素敵な品々があったので、生徒たちもいろいろと購入していた。去年は、レジに白梅生たちの行列ができて、集合時間に間に合うかひやひやしたのだが、今年は余裕がある。そこで急遽、古宇利大橋下の美しい砂浜へ立ち寄ることになった。わずか 20 分ほどであったが、生徒たちは思い思いに時間を過ごしていた。



ホテルへと戻り、「平和講話」である。終戦の年に1歳でいらしたE氏から御講演をいただいた。戦争がどのようなものであるか、平和や生命の大切さについて熱くお話していただいた。生徒たちの聴く姿勢・態度も立派なものであった。講演終了後、E氏をホテルの玄関までお見送りをした際に、「生徒さんたちがよく聴いてくれた。また機会があればお話しさせてください。」とのお言葉をいただいた。(つづく)



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)